

## 令和3年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立横川東小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和3年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

#### 2 調査期日

令和3年5月27日(木)

#### 3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 生徒質問紙)

#### 4 本校の参加状況

① 国語 120人

② 算数 120人

#### 5 留意事項

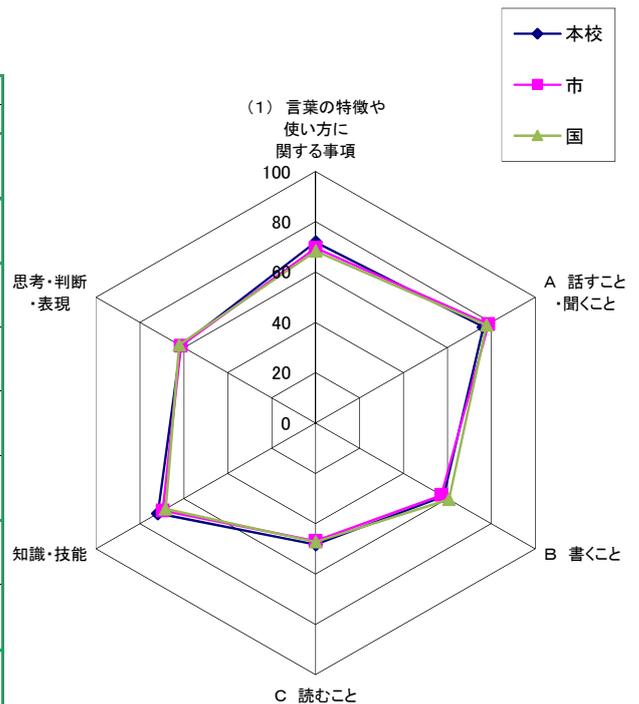
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

# 宇都宮市立横川東小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

## ★本年度の国、市と本校の状況

### 【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	71.9	69.6	68.3
	(2) 情報の扱い方に関する事項			
	(3) 我が国の言語文化に関する事項			
	A 話すこと・聞くこと	76.4	78.7	77.8
	B 書くこと	58.3	57.3	60.7
	C 読むこと	48.3	46.9	47.2
観点	知識・技能	71.9	69.6	68.3
	思考・判断・表現	61.4	61.4	62.1
	主体的に学習に取り組む態度			



### ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

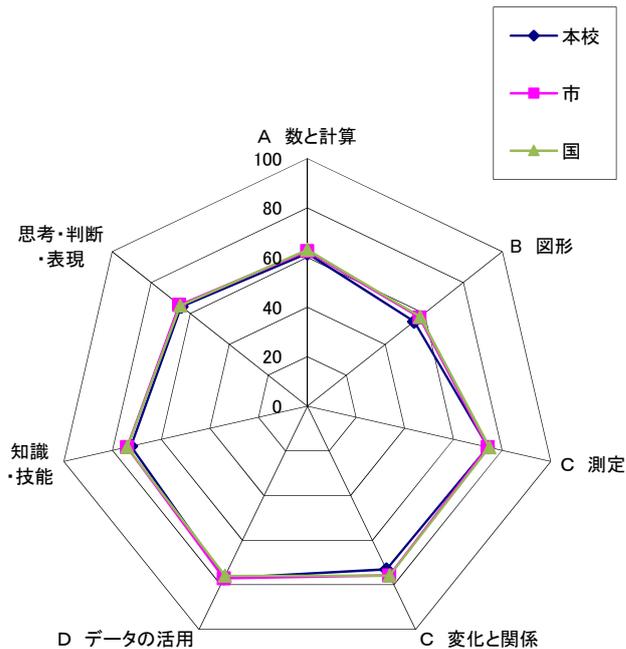
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方に関する事項	<p>平均正答率は、国や市の平均正答率をやや上回っている。</p> <p>○「学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使う」設問については、国や県の平均正答率を10ポイント以上上回る結果となり、国語の時間での漢字練習やミニテストの実施等の取組の成果が出たものと思われる。</p> <p>●「文の中における主語と述語との関係を捉える」設問では、県の平均正答率をやや下回った。</p>	<p>・漢字の読み書きの学習については今後も繰り返し定着を図っていく。</p> <p>・日常生活では使われることが少なくなった慣用句やことわざなど、さまざまな日本語に触れる機会を適宜もつよう指導していく。</p> <p>・主語と述語の関係がはっきりとできるように、意見の発表や作文指導、文章の要約など、日常から指導し、意識化を図る。</p>
A 話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は、国や市の平均正答率とほぼ同じだが、やや下回る結果になった。</p> <p>○「目的や意図に応じ、資料を使って話す」設問については、国や県の平均正答率とほぼ同じ結果となった。調べ学習や発表などの機会を通して、その成果が表れたものと思われる。</p> <p>●「資料を用いた目的を理解する」設問では、国や県の平均正答率に対してやや下回った。</p>	<p>・今後も話し合う活動を授業の中に意図的に設け、やり取りをする時間を確保していく。また、適宜、伝え方や聞き方の指導もしていく。</p> <p>・自分が伝えたいことが適切に相手に伝わるように、言葉の選び方や文の構成の仕方を考えさせる場面を設定し、筋道を立てて説明をする力を育てるようにする。</p>
B 書くこと	<p>平均正答率は国や市の平均正答率とほぼ同じだった。</p> <p>○「目的や意図に応じて、理由を明確にしながら、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する」設問については、国や県の平均正答率をやや上回る結果となった。普段の授業から書くことを意識して学習している成果が表れているように思われる。</p> <p>●「自分の主張が明確に伝わるように、文章全体の構成や展開を考える」設問では、国や県の平均正答率に対してやや下回った。</p>	<p>・文章全体の構成や展開を工夫させるために、メモや下書き段階での計画や準備を丁寧に行い、見直しをもたせるようにする。</p> <p>・全体的に記述による解答では正答率が低い傾向が見られるため、意見や考えを文に表すだけでなく、相手に伝わる書き方になっているか推敲したり、友達や教師に読んでもらい、どのように伝わったか確認したりする学習をしていく。</p>
C 読むこと	<p>平均正答率は、国や市の平均正答率とほぼ同じ結果になった。</p> <p>○「文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事柄を把握する」設問では、国や県の平均正答率を大きく上回る結果となった。読書量も増え、考えさせながら読む活動をできるだけ多くしている成果が表れている。</p> <p>●「目的に応じ、文章と図表とを結びつけて必要な情報を見付ける」設問では、国や県の平均正答率に対してやや下回った。</p>	<p>・場面の様子や心情を叙述から読み取る学習や、読み取るポイントを指導することで、より深い理解が行えるようにする。</p> <p>・ペアやグループなどで話し合ったりすることで、内容を読み取る力を付けていくように指導したい。</p> <p>・文中の言葉がどの内容を示しているかを考えさせることで、内容を的確に捉えられるよう繰り返し指導していく。</p>

# 宇都宮市立横川東小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

## ★本年度の国、市と本校の状況

### 【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	61.7	62.6	63.1
	B 図形	54.7	57.5	57.9
	C 測定	74.2	74.1	74.8
	C 変化と関係	73.1	75.8	75.9
	D データの活用	77.0	77.1	76.0
観点	知識・技能	72.5	74.1	74.1
	思考・判断・表現	64.5	65.6	65.1
	主体的に学習に取り組む態度			



### ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	<p>平均正答率は、どの領域も全国平均とほぼ同じである。</p> <p>○「示された除法の結果について、日常場面に即して判断する」設問では、本校の平均正答率は県や全国の平均を上回っている。</p> <p>●「二つの道のりの差を求める」設問では、本校の平均正答率は57.5%と全国平均を下回った。</p>	<p>・朝の学習や授業中、家庭学習におけるプリント、ドリル学習などで計算の反復練習を継続して実施し、計算力のさらなる向上に向けた取組を行っていく。</p> <p>・根拠を明らかにしたり手順を順序よく説明したりすることで、技能や思考力をさらに高めていく。</p>
B 図形	<p>平均正答率は、5領域の中で最も低い。</p> <p>○「直角三角形を組み合わせた図形の面積について分かることを選ぶ」設問では、県や全国の平均正答率をやや上回っている。</p> <p>●「直角三角形の面積を求める式と答えを書く」設問の平均正答率は低い。底辺が分からない、四角形の面積の公式と混同してしまうなどの誤答がみられた。</p>	<p>・既習事項の確実な定着を図るために、体積の単元で面積の公式を復習するなど、新しく学ぶことと既習事項を結び付けることで理解を深めていく。</p> <p>・つまづきを解消するために、習熟度別学習を生かして個に応じた指導の充実を図る。</p>
C 測定	<p>平均正答率は、前回の本校の平均正答率を下回る。</p> <p>○「条件に合う時刻を求める」設問については、国や県の平均正答率をやや上回る。</p> <p>●「二つのコースの道のりの差の求め方と答えを記述する」設問では、57.5%と低く、全国平均を下回り、記述式を苦手としている傾向がある。</p>	<p>・デジタル教科書や実物投影機などを利用し、測定の方法や表現の仕方を視覚的に捉えさせるとともに量を数理的に処理する手順について丁寧に指導し習熟を図る。</p> <p>・高い正答率を示した力をさらに向上できるように、発展問題にも数多く取り組ませるようにする。</p>
C 変化と関係	<p>平均正答率は、他の領域とほぼ同じである。</p> <p>○「道のりと時間の関係について考察する」設問では、89.2%とやや高い。</p> <p>●「速さと道のりを基に時間を求める」設問では、全国の正答率を下回る。</p>	<p>・自分なりに考える習慣が身に付くように、見通しをもち筋道を立てて考えることや既習事項を基に試行錯誤することなどの方法を示し、繰り返し取り組ませるようにする。</p> <p>・速さや時間のように異種の二つの量の割合についての理解を深めるために、伴って変わる二つの数量の関係や割合の内容などの関数の考えを一連の学習として、つながりを求めて指導していくようにする。</p>
D データの活用	<p>平均正答率は、県や全国の平均正答率とほぼ同じである。</p> <p>○「棒グラフから分かることを選ぶ」設問では、本校の正答率は98.3%と高い。グラフから数量、項目間の関係を読み取ることができることを示した。</p>	<p>・高い正答率を示した力がさらに向上するように、算数の補助プリントでは、計算だけでなく、統計的に解決する問題や数学的に表現・処理する問題にも多く取り組むようにする。</p>

# 宇都宮市立横川東小学校 第6学年 児童質問紙

## ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○生活面では、「朝食を毎日食べている。」と肯定的な回答をした児童の割合が95%、「毎日同じくらいの時刻に寝ている。」と回答した割合が81.9%、「毎日同じくらいの時刻に起きている。」と回答した割合が94.3%という結果になった。どの回答の割合も全国の肯定的割合をほぼ同じという結果が出て、生活面では基本的な生活習慣が身につけている児童が多いことが分かる。

○学校生活に関しては、「学校に行くのが楽しい」という質問に対し、90.9%の児童が肯定的な回答をし全国より7.5ポイント上回っていて学校生活に満足している児童が多い。また、「人が困っているときは進んで助けている。」と回答した児童が95%、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだ。」と回答した児童が98.4%、「人の役に立つ人間になりたい。」と回答した児童が96.7%と、思いやりの心をもって友達や学校のために働こうとする児童が多いことも分かる。今後も道德の授業を中心に、よりよく生きていくための道徳性について指導していきたい。

○家庭学習では、「家で自分で計画を立てて勉強をしている。」と肯定的な回答をした児童は78.5%と全国の肯定的割合を4.5ポイント上回っている。また「普段の(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強しているか」という質問で1時間以上勉強していると回答した児童が71.8%で9.3ポイント上回り、「学校が休みの日、1日当たりどれくらいの時間、勉強しているか」という質問で72%と11ポイントと大きく上回っており、家庭での学習習慣が身に付いている児童が多いと考えられる。また、「普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどのくらいの時間、読書をしているか」という質問で30分以上読んでいる児童が39.7%で全国の割合より上回っていたが、14%の児童が全く読まないと回答するしていることから、家庭と連携しながら楽しく読書に取り組めるようにしていきたい。

○ICT機器の活用については、「学校で他の友達と意見を交換したり、調べたりするために週1回以上使用している」という児童が63.6%であり、県や全国と24.6ポイントも大きく上回った。また「ICT機器を使うのは、勉強に役立つと思う」と99.2%の児童が肯定的な回答をし、関心が高いことが分かった。

○授業への取組については、「学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。」と肯定的な回答をした児童の割合が83.5%で、全国の肯定的割合を4.7ポイント上回る結果となった。授業の中でペアやグループ活動を工夫して取り入れていることで、自分と友達の意見を比較しながら考えたり、友達の意見を踏まえて自分の考えを深めたりすることができることに楽しさや達成感を感じている児童が多いと考えられる。今後も、話し合い活動の目的を明確に示したり、つなぎ言葉や考え言葉を用いたりして、話し合いの質の向上を図っていきたい。

○国語や算数、英語の学習に関しては、どの質問に対しても県・全国の肯定的割合を上回っている。「勉強は大切」「将来、社会に出たときに役立つ」という質問に対して肯定的割合が9割を超えていることから、関心・意欲・態度の高さがうかがえる。今後も、学習意欲を維持できるように教材・教具を工夫しながら授業を展開していきたい。

●携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、「家の人と約束したことを守っている。」と肯定的な回答をした児童は67.7%と全国の肯定的割合をやや下回っている。「普段(月曜日から金曜日)、一日あたりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームを含む)をするか」という質問に対して1時間以上していると回答した児童は、65.3%と全国の肯定的割合を10.9ポイント大きく下回っている。スマホ・ケータイ宮子ルール共同宣言をもう一度確認し、約束を守って使えるように家庭と連携を図っていきたい。

●県・全国の肯定的割合は上回っているが、「新聞を読んでいる」という質問で月1~3回程度読んでいると回答をした児童の割合は31.3%と全体的に低い。新聞をとっていない家庭や新聞をとっていても読まない児童が多い現状から、今後は新聞記事を授業で扱ったり、新聞を廊下に掲示したりするなどして、情報を活用した問題、解決についての方法や情報に関するマナー等について指導していきたい。

## 宇都宮市立横川東小学校 (第6学年) 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・基礎基本の確実な定着	・「朝一学習」(月・水・金:読書, 火:国語, 木:算数)の実施 ・学期ごとの漢字計算オリンピックの実施。 ・パワーアップシート等の復習用教材の効果的な活用	・知識・技能の問題の平均正答率は、全国の平均正答率と比べて国語が71.9%でやや高く、算数が72.5%でほぼ同じであった。
・主体的・対話的で深い学びの実現を目指す授業改善	・主体的対話的で深い学びの達成のための「めあてや見通し、見方・考え方、振り返り」などの授業改善の視点の共通理解と実践、計画的な校内研修の実施	・「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいますか」の質問に対する肯定的回答の割合は87.6%で全国、県と比べて高い。
・思考力・判断力・表現力の育成	・自分の考えを書く活動の習慣化と自分の考えをもたせるための支援 ・ペアやグループ、全体での学び合いの場の設定の工夫	・「学級の友達との間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、友達の考えを受け止めて自分の考えをしっかりと伝えていましたか」の質問に対する肯定的回答の割合は、81.0%で全国、県と比べてやや低い。また、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて自分の考えを広げたり深めたりすることができていますか」の質問に対する肯定的回答の割合は、83.5%で全国、県と比べて高い。
・家庭学習の習慣化	・本校独自の「家庭学習の手引き」を活用した、発達段階に応じた適切な課題や量の調整と計画的な家庭学習の推進	・「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」の質問に対する肯定的な回答をした児童は78.5%で、全国と比べて高い。